

認知症初期集中支援チーム

設立の狙い紹介

市などがフォーラム



認知症初期集中支援チームなどへの理解を深めたフォーラム

登別市、室蘭市医師会、西胆振認知症を考える会、エイザイが共催する「認知症フォーラムin登別」が15

日、登別市幌別町の鉄南ふれあいセンターで開かれ、参加者は市の「認知症初期集中支援チーム」の役割や、認知症の早期発見・早期支援のポイントを学んだ。

10月1日に室蘭、登別両市で「認知症初期集中支援チーム」が活動を開始したのに伴い、認知症の早期発見などのポイントを学び、認知症の人を地域で支える認識で開催。市民や介護サ

ービス事業所の関係者、地域の民生委員ら約100人が参加した。

市高齢・介護グループの佐藤朱美地域支援主幹が「認知症あんしんガイドブック」を紹介した後、認知症初期集中支援チームの大塚久也室長が「認知症初期集中支援チームって何だろう？」「三愛病院の千葉泰二理事長・院長が「認知症の合図」をテーマに講演した。

大塚室長は、認知症初期集中支援チームの支援内容について「医療・福祉職と一緒に訪問するので他職種

の視点で関われる」「認知症サポート医師から専門的意見を随時聞ける」「専任チームなので臨機応変な対応が可能」とポイントを紹介した。

千葉理事長・院長は認知症のケアについて「方法は人それぞれ。認知症の方が歩んだ人生を理解することなどもケアにつながる」とアドバイスし「日ごろからどういうケアをしたら良いのかなど、認知症初期集中支援チームや地域包括支援センターに相談を」と呼び掛けていた。（高橋紀孝）